

テーマ「ワーク・ライフ・バランス」

【問】仕事と生活の調和をとることは、なぜ、社会にとって大切なのでしょうか。記事を参考に、自らの体験や身近な例もあげながら、わかりやすい言葉を使い400字程度で答えてください。

仕事と生活をバランス良くすることは、労働者の仕事にも生活にもプラスになると言える。仕事中心でも生活を重視し過ぎても良い結果は生まれない。

仕事を中心になると、日本の働き方では、家族との時間があまり持てない。また長時間労働により、健康面に問題を抱えるかもしれない。うつ病などの病気になる恐れもあるだろう。生活を重視し過ぎると、仕事が疎かになる可能性があり、それは労働者としては望ましいことではない。収入が増えなかったり、減ったりすれば、育児や生活に不安を感じるようになる。

社会全体に、仕事と生活を両立させようという意識が少ないと思う。介護休職や男性の育児休業取得率が増えていない。介護休職や男性の育児休業を良く思っていない人が少なくない。待機児童の問題もなかなか改善が進まず、働きたくても働けない人は多い。ワーク・ライフ・バランスについて、今よりも一般的に広まる必要があると感じた。

評：今回求めているのは、自由意見ではなく、「なぜ、社会にとって大切なのでしょうか」という設問への解答です。「社会を持続可能で確かなものにする上で不可欠だからだ」と呼応させて答えましょう。この要素を押さえないと、ずれた印象を与えてしまいます。何を聞かれているのか、何を求められているのかに即して対応することは、ビジネスでもとても重要です。そのためには、相手の話をしっかりと聴く「傾聴」の姿勢が必要です。

「社会を持続可能で確かなものとする」には、少子高齢化への対策が必要です。仕事ばかりでプライベートの時間がないと、結婚相手が見つけれられない。結婚しても子どもを産み育てる余裕がない。そうすると、次世代の担い手がいなくなり、社会が持続しなくなる、そういう循環を心配しているのです。

コメント [a1]: 「なぜ、社会にとって大切なのでしょうか」と聞かれているので、「社会を持続可能で確かなものにする上で不可欠だからだ」と呼応させて答える。【評】参照

コメント [a2]: 「恐れもある」という表現は可能性を示し、断定ではないので、あえて「だろう」をつける必要はない。

コメント [a3]: 「意識」に続けるのに「少ない」は違和感がある。「薄い」か「低い」。この文脈では「十分浸透していない」ではいかが。

コメント [a4]: 「介護休職」と「男性の育児休業取得率」を並列関係におくのは誤り。並列するためには概念をそろえる。ここは「制度」でそろえる。「介護休職や男性で育児休業の制度を利用できる人の割合」

コメント [a5]: 繰り返しになるので「こうした制度」などと言い換えてはいかが。

コメント [a6]: 利用する人を好ましく思わない

コメント [a7]: 意識改革の話なのか、政府や企業による制度導入の話なのか、もう少し丁寧に書く。